



2026年2月27日

日本鉄道労働組合連合会

鉄道の将来像を高市政権に問う！

「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」所属の川合孝典参議院議員(国民民主党)が参議院本会議で代表質問

2月26日、第221回特別国会の参議院本会議において、「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する川合孝典参議院議員(国民民主党)が代表質問に立ち、高市早苗内閣総理大臣、金子恭之国土交通大臣に対し、公共交通、特に鉄道に関する認識を問うた。



川合議員

川合議員は高市総理に対し「公共交通政策、とりわけ鉄道政策について総理に伺う」と切り出し、成長分野にだけ目を向けるのではなく、日本を支える基盤的インフラの維持・拡充も必要と主張。高市総理の考える公共交通の将来ビジョンとは何か、他の政策分野との親和性の高さを踏まえた交通政策への財政出動の推進について見解を求めた。あわせて、本年1月には今後5カ年を見据えた第3次交通政策基本計画が閣議決定されたが、人口減少が加速度的に進む中では、より長期的な観点から交通政策のグランドデザインを描くべきと指摘。地方ローカル線にも触れ、輸送密度2,000人未満の路線・区間は収支が全て赤字であるほか、鉄道産業における労働力不足は深刻化し、メンテナンスにも影響が生じているとの現場実態を紹介し、鉄道の将来ビジョンを示すよう求めた。加えて、新幹線ネットワークの構築は成長投資と主張し、建設推進に向けた整備スキーム改定や予算の抜本の見直しが必要と述べた。



高市総理

金子大臣

これに対し高市総理は、日本の持続的な成長には人流・物流を支える交通が必要との考えに立ち、第3次交通政策基本計画を取りまとめた旨を説明。「交通政策の推進にしっかりと取り組む」と意思を示したほか、鉄道ネットワークに関する課題に対しては有識者委員会を開催

しており、議論を深めていくと答弁した。

続いて、金子国交大臣より交通空白解消に向けた法案準備や鉄道・バス路線の再構築支援のほか、新幹線ネットワークについて、「日本の経済社会を支える基幹的な輸送機関として丁寧かつ着実に構築していく」旨が示された。また、空港へのアクセス鉄道に対する国際観光旅客税の活用に取り組むと述べた。

JR連合は、引き続き我々の主張に理解ある国会議員と連携し、JR産業の課題解決に向けて取り組んでいく。